

part1  
ようこそ此処へ



鷲尾 直人 (タクシー運転手 小野寺) ※写真左

ご先祖様が帰ってくるのが、お盆。そうは言っても幼い僕にとってはご先祖様なんて知るよしもなく、先祖＝祖父だった。ナスとキュウリで馬と牛を拵え、玄関先で雑に迎え火を焚く祖母。何かと雑な祖母。仏壇への御供え物も、まあ雑だ。よく見ると、牛も馬も足の長さがチグハグだ。「いいのいいのそんなもんで」と祖母は言う。そのやっつけ具合を傍から見ると、面倒くさがっている様に見える。でも幼い僕は知っている。祖母はそのやっつけを毎年欠かさない事。迎え火の意味を覚えてくれた時の嬉しそうな顔も、送り火の意味を覚えてくれた時の、寂しそうな顔も。

田中 なるいち (乗用車運転手 田崎) ※写真右

私の地元の町ではお盆に祭りが開催されます。その中でも、夜に行われる盆踊りが大人気でしたが、ある年はなんと盆踊りの音楽が途中で止まってしまいました。しかし、地元の人々は諦めず、みんなで声を合わせて歌いながら踊り続けました。その瞬間が逆に楽しい思い出となり、以降その年のお盆は「音楽ストップ盆踊り」として伝説となりました。音楽が途切れたことで、地域の絆がより深まった瞬間でした。…と、チャット GPT 先生が申しておりました。すごいですね。

part2  
君に幸あれ



笹本 純一 (店長 野島) ※写真左

僕のいつかのお盆で言ったらこれしかありませんね！子供の頃、近所にいとこが住んでいたのでお盆になると皆で迎え火と送り火をやりました。そしてそのまま花火をしたり、お泊り会をしたりしてね、とても楽しみな夏休みのひとつの行事でしたね〜。今では中々皆揃わないので、思い出すととても懐かしい気持ちになります。

こんの さおり (従業員 佐々木) ※写真右

まだバブルな空気が残っていた小さい頃、那須に旅行中、ホテルのプールに潜り、私と兄で大人が落とした小銭の多さに興奮していた一方、テンション爆上がりの父が浅いプールに飛び込み顔面殴打し、顔が紫に腫れ上がりました。母はお岩さんみたいと笑っておりましたが、小さい私はリアル幽霊を見て震えておりました。

小又 びろこ (従業員 村田) ※写真中央

お線香と祖母のお経、走馬灯が回る部屋で飲んでうるさい大人たち。古い記憶は何だか面倒な印象。新しい記憶はまだ少しヒリヒリするけど…、今は、もう会えない人たちとお盆くらい夢で会いたい気持ち。

part3  
また会う日まで



田仲 晶 (姉 奈津) ※写真右

小学生の時、毎年お盆になると田舎のお祖母ちゃん家に行くのが定番でした。きれいな色柄のついた提灯に火を入れて小高い山を少し登ったあたりにあるお墓までお迎えに行くのが、なんだか冒険に行くみたいでワクワクしていたな。その頃から、冒険好きでした(笑)

清水 智未 (妹 亜季) ※写真左

小学生の頃は母方の実家に親戚一同が集まって、祖母のこれでもか！って位のおもてなし手料理をワイワイ食べてました。

で、いとこ達と布団を並べてお泊りしてたある日、私の夢枕に軍服を着た青年が立って、顔を覗き込んでニコって笑って消えていったんです。

特に怖いとか思わなくて翌日祖父にその話をしたら、仏間の遺影を指さして「あの人じゃないか？」と。

そこにはあの笑顔の軍服の青年がいました。その人は、私の母が産まれる前に戦争で亡くなった祖父の兄弟でした。

姪孫は平和な日本で今日も元気に芝居してます！